

平成30年度いばらきっ子郷土検定問題 解答と解説

利根町 解説

| | | |
|---|---|----|
| 組 | 番 | 氏名 |
|---|---|----|

| 番号 | 解 説 | 答 |
|----|--|---|
| 1 | 金銅板両界曼荼羅(こんどうばんりょうかいまんだら)は、利根町で唯一の国指定文化財として登録されている工芸品です。1936年(昭和11年)5月6日に登録されました。 | 3 |
| 2 | 「ならし打ち唄」。「利根地固め唄」は、土羽打ち唄、石だこ打ち唄、くい打ち唄、の順に3種類の仕事歌を唄いながらそれぞれの作業を行います。建設機械などがなかった当時、多数の者が共同作業をする際に動作を揃え、作業の効率をよくするとともに、怪我人等を出さないようにするために歌われたのが始まりです。 | 4 |
| 3 | 「赤門やおめずおくせず 時鳥」は、俳人の小林一茶が布川の来見寺に訪れた際に詠んだ句です。赤門は、来見寺が徳川家康ゆかりの寺であるということから、特別に門を赤く塗ることを許されたことが始まりとなっています。この句の「おめずおくせず」は漢字に直すと「怖めず臆せず」と書き、ホトギスが怖れることなくこの由緒ある赤門を堂々と通り抜ける様を一茶が見て、この句を読んだのでしょうか。 | 1 |
| 4 | 利根町産米粉を使用したどら焼きです。卵を使わず季節ごとに「アン」の種類が変わります。 | 2 |
| 5 | 利根町布川にある和菓子や「船橋屋」です。ほかにも「子育て巻」や「松替の梅」等、利根町の文化や歴史をモチーフにした和菓子や、定番の和菓子を製造販売しています。 | 4 |
| 6 | 文間小学校と合併する前の東文間小学校にて保管されていたのが、明治の政治家勝海舟が記したといわれていた扁額(へんがく)です。横長の額で、右から横文字で「東文間学校」・左側には縦文字で「辛卯仲秋(明治24年秋頃を表す)」(勝)海舟」と記されています。かつて東文間地区に住んでいた住民が勝海舟と知人関係だったとのことで、学校を改修した際に書いてもらったそうです。現在は利根町立歴史民俗資料館に展示されています。 | 2 |
| 7 | 毎年2月に開催され、町内外の多数のチームが参加し、賑わいを見せているイベント「利根町駅伝大会」は今年で第34回を迎えることになりました。 | 3 |
| 8 | 地藏市(地藏まつり)は徳満寺にある木造地藏菩薩立像(通称・子育て地藏)が収められている地藏堂の御開帳に合わせて、毎年11月末に行われます。昔、人々が御開帳に合わせて近辺に市(いち)を出すようになったことが地藏市の起源だといわれています。現在も行われており、町内外問わず、様々な人が地藏市を訪れています。 | 1 |
| 9 | 蛟網神社「門の宮(かどのみや)」は、約2300年前に水神をまつた場所として建てられたと言われており、かつては文間大明神と呼ばれていました。またこの「門の宮」の地面からは大量の貝が発掘されており、町指定文化財である「立木貝塚」の中心地としても有名です。 | 2 |
| 10 | 茨城国体における利根町の競技はウォーキングです。実施競技のうち「デモンストレーションスポーツ」の一つとして利根町内の7キロメートルと18キロメートルの2つのコースを歩き、健康づくりやコミュニケーションを図ることを目的としています。 | 4 |
| 11 | 利根町のいばラッキーはウォーキングをモチーフにしているため、ぼうしをかぶってリュックを背負っているいばラッキーが使われており、そのぼうしの色は茶色です。 | 2 |
| 12 | 利根町地場産業推進協議会では、米の消費拡大のため、「米粉」の推進をおこなっています。この米粉は、産地品種銘柄米「とねのめぐみ」をきめ細かく製粉し、ピザやロールケーキなど様々な料理に使うことができ、特産品として販売しています。 | 4 |
| 13 | 町の花「カンナ」と町の木「サクラ」は、1973年(昭和48年)4月1日に一緒に制定されており、町の鳥「ヨシキリ」は1985年(昭和60年)8月1日に制定されました。 | 3 |
| 14 | 柳田國男は、布川の小川家に滞在していた少年時代、小川家のほこらにある氏神の玉に触れ、気持ちが変になって空を見上げると青空にいくつもの星が輝いて見え、ヒヨドリの鳴き声で正気を取り戻したと後年述べています。 | 1 |
| 15 | 「坂東(ばんどう)」とは現在の関東地方を指し、その中でも日本で一番大きな川という意味で「坂東太郎」と呼ばれています。 | 3 |
| 16 | 1981年(昭和56年)8月に発生した台風15号の影響により、小貝川は高須橋上流200メートルで決壊しました。田畑の大きな浸水は900ヘクタールにも達し、農作物は当時の価格にして約5億円もの被害を出しました。 | 2 |
| 17 | 音のまちTONEは、毎年6月に利根町役場開催される町民のための演奏会です。町民から演奏者を募集し、コーラス・ピアノ・琴・バイオリンなど、多くの種類に及ぶ生演奏を披露して頂いております。 | 4 |
| 18 | 利根親水公園は、古代ハスが淡いピンク色の花を咲かせていることで有名です。古代ハスは、花びらが25センチメートル前後で、朝から晴れると昼過ぎには花が閉じてしまうことがあり、観賞は午前中が最適です。 | 1 |
| 19 | 来見寺に立ち寄った徳川家康公が庭にあった松の木をたいそう気に入ったので、日山和尚が江戸城に献上した。後にその返礼として梅の木をください、松の木に変わって境内に植えたのでこの梅を「松替の梅」と名づけました。現在でも来見寺境内で見ることが出来ます。 | 3 |
| 20 | 7月第1日曜日に布川の徳満寺で行われる「太刀祭」は、利根川流域の一部古くから伝わる奇祭で、徳満寺の屋根裏にあった木製の太刀を担いで門田を練り歩き、悪霊退散を願う伝統行事です。 | 2 |
| 21 | 高瀬舟(たかせぶね)は昔の利根町、特に利根川がすぐそばにあった布川には必要不可欠の存在でした。荷物運搬船としての役割を果たしており、昔の布川は水運の要所として栄えていました。そのため食事処や飲み屋などの娯楽が多く集まり、近隣地域でも随一の活気あふれる場所となっていました。 | 4 |
| 22 | 剣を筆に持ち替えて俳句を作った久保田一夢斎の墓があるのは「来見寺」です。師の素丸が「夢さめて荒野にあそぶ胡蝶かな」の句を寄せています。 | 1 |
| 23 | フリフリグッパ体操は、筑波大学大学院人間総合科学研究科の征矢英昭助教授によって開発された脳フィットネス体操です。筑波大学と連携して、2003年(平成15年)にいち早く利根町内に導入されました。一定のリズムで手・かかと・腰を動かすことで認知症・生活習慣病の予防改善、また感情のコントロールや脳の活性化による成績向上にも効果があります。 | 2 |
| 24 | 「うめえ」とはじもとのことばで「美味しい」「さすが、よく出来た」の意味で使われており、「利根うめえもん」のイメージキャラクターの名前になっています。消費者の皆様に安全で安心な商品を購入していただく目印となっています。 | 3 |
| 25 | 「コーヒーハウスとむとむ」では、トネビーンズという名の独自に栽培したコーヒー豆を提供しています。良質な苦味と芳醇な風味を楽しめますが、生産量が少ないため期間限定での提供となっている貴重なコーヒー豆です。 | 4 |